

埼玉産小麦アピール

埼玉県産小麦を広くアピールし、消費拡大につなげよう。同県内の生産者や製粉会社、加工業者、消費者団体らが参加して「埼玉産小麦ネットワーク」を立ち上げた。食のイベントへの出店やインターネットでの情報発信、会員同士の交流を目的に活動を本格化させる。

埼玉県 前田食品が製造販売 幸手市

同県は全国第6位の小麦生産量を誇る。ネットワークには約120を越す企業や団体が参加した。

ネットワーク化を呼び掛けたのは、幸手市の製粉会社・前田食品㈱。県産小麦を中心に国産小麦を80%以上使った小麦粉を製造販売する。入江三臣社長は「中小零細企業では、県産小麦で良い商品を作っていて

も、知名度が低い。ネットワークを組むことで商品のPRをはじめ、新たなコラボレート商品を開発し、県内外にどんどん売り込みたい」と意気込みを示す。

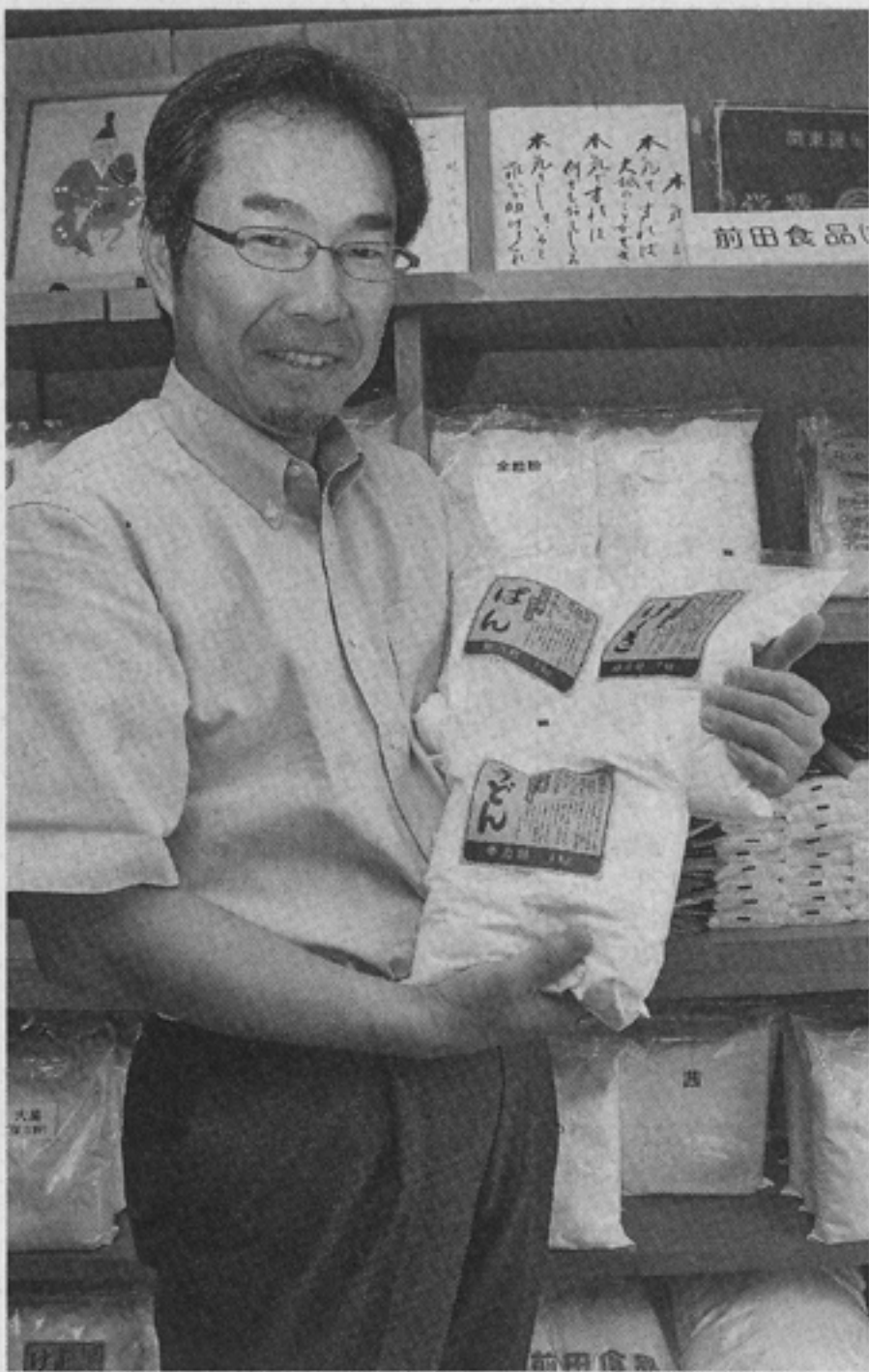
活動のシンボルとして、小麦をデザインしたロゴマーク「SWING group (スインググループ)」を採用した。「SWING」には、麦穂がたわわに実って揺

れるさま、おいしい小麦製品を食べて楽しく揺れる心、日本の食文化を揺さぶる——という意味を込めた。

当面の会費は無料。同社がロゴマークをあしらったのぼり旗やPRマップ、活動案内パンフレットなどのグッズを作り、希望する会員に有料で販売する。イベントでの販促活動には、参加企業が無償で商品を提供する。

入江社長は「まずは仲間づくり。消費者には県産小麦を食べるという方法で応援してほしい」と話す。製めん業界の団体などが10月に横浜市で開く「第1回うどん・そば産業展」を皮切りに、県内外の食のイベントに参加する。

異業種が連携 ネットで情報発信



「埼玉県産小麦をもっと広くアピールしたい」と張り切る前田食品の入江社長